

第7章 活用

7-1 活用の方針

【活用の基本的な方向性（第5章より抜粋）】

史跡英彦山の認識向上や英彦山への愛着、誇りを醸成させるため、史跡英彦山の価値の情報発信、学習機会の提供、英彦山に親しむ多様な機会の創出を目指す。

活用の基本的な方向性の実現に向けて、以下の方針のもと史跡英彦山の活用に取り組む。

方針1 史跡英彦山の価値を多種多様な方法で情報発信する

史跡英彦山の価値を多様な世代へ発信するため、パンフレット等の紙媒体や電子媒体等を活用した情報発信の強化を図るとともに、専門ガイド等のコミュニケーションによる情報発信を推進する。

方針2 子ども達への教育機会や生涯学習の機会を充実させる

史跡の保存活用のこれからの担い手となる若年層の英彦山への愛着や誇りを醸成させるため、子ども達への教育機会の充実化を図る。また、地域の一人一人が英彦山の紹介を行えるよう、町民に対する学習機会の充実化を図る。

方針3 地域資源を活用し、英彦山に親しむ多様な機会を創出する

英彦山との多様な関わりを醸成させるため、史跡英彦山が有する構成要素に加えて、英彦山が有する自然や貴重な動物、昆虫、植物などの地域資源を観光振興等で活用し、英彦山に親しむ多様な機会を提供する。

7-2 活用の方法

活用の方針を推進する方法を示す。

(1) 情報発信の方法

1) パンフレット、マップ等の提供

現在発行しているパンフレットやマップは、史跡指定後の最新情報が掲載されていないものがある。史跡英彦山の価値を適切に伝えるため、最新情報のパンフレット、マップを作成し、情報発信に努める。情報発信にあたっては、調査研究の進捗状況等に応じて内容の適宜見直しを行い、情報の更新を図る。

また、英彦山においても増加している外国人来訪者への英彦山の紹介とともに、見学におけるルール等を周知するため、多言語表記のパンフレットやマップを作成し、情報発信に努める。

2) 町や観光協会等のホームページや SNS での情報の提供

英彦山の歴史とともに、英彦山神宮と修行窟、宿坊等の英彦山の価値を構成する要素を広く紹介するため、町や観光協会等のホームページで情報発信を図る。発信にあたっては、英彦山の魅力を分かりやすく伝えるため、映像情報を活用したり、多言語対応による情報提供したり、情報発信ツールの強化、整備を図る。

3) 来訪者へのガイドサービスの提供

英彦山に豊富に存在する歴史的文化遺産を分かりやすく来訪者等に伝えるため、現在有料でサービス提供を開始した専門ガイドのサービスの質の向上を目指し、担い手の育成やガイドを利用しやすい環境の整備を図る。

(2) 学習機会の充実の方法

1) 町内の小中学校でのカリキュラムの提供

小中学校での英彦山をはじめとする歴史教育の質を高めるため、町が作成した本町を紹介する歴史テキストの活用や、実際の物に親しむ機会の提供など、小中学校と協議しながらカリキュラムづくりを進める。

2) 周辺市町村の子供達への学習プログラムの提供

周辺の市町村の子ども達への学習機会を提供するため、英彦山青年の家に林間学校として来ている子ども達に対し、学芸員や専門ガイドといった専門家による史跡英彦山の学習機会を提供するなど、学習プログラムづくりを進める。

3) 勉強会やシンポジウム等の開催

来訪者に対して地域の一人一人が英彦山の紹介を行い、コミュニケーションの中から交流が生まれるような環境を整えるため、町民に対する学習機会の提供を継続的に実施する。学習機会の提供にあたっては、専門家等による町の歴史文化の勉強会の場を活用し、英彦山を題材にした勉強会を継続的に提供する。

また、継続的な調査研究により蓄積された成果は、公開に努めるとともに、シンポジウム等の場を通じて学習機会の提供を図る。

(3) 英彦山に親しむ多様な機会の創出の方法

1) 歴史探歩イベントの開催

英彦山内の史跡を構成する要素を巡るまち歩きイベントや宿坊、庭園等の公開活用イベント等の開催を通じて、史跡の価値を伝えるとともに、英彦山を媒介した交流を促進させる。

2) 動植物、昆虫体験学習の開催

英彦山内の貴重な動物や昆虫、植物等の地域資源を活用したイベントを通じて、史跡英彦山の価値を伝えるなど、英彦山にまつわる多様なイベントを通じた情報発信を図る。

3) 修行窟や宿坊等を活用した体験プログラムの提供

修行窟や宿坊等を活用した現地での体験型イベントやツアー等のプログラム提供を通じ、史跡の価値を伝えるとともに、英彦山を媒介した交流を促進させる。プログラムの提供にあたっては、地域に根付いたツアー開発のため、地域関係者等をまじえた検討を支援するとともに、アイデアの効果検証を行うモニターツアーや社会実験等の実施を支援する。

4) 英彦山再興を体現する本来機能と異なる機能による宿坊等の活用

本計画の基本理念である英彦山再興を念頭に、宿坊本来の機能である宿泊の場としての活用に加えて、飲食店といった本来とは異なる機能による活用を促進させる。活用にあたっては、多用しつつも、地下遺構の保存や周辺の景観との調和が図られた活用を基本とする。